

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	R101	就業キャリア創造 I		学科名	全学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義・演習	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～3月
科目の概要	卒業後のキャリアデザインを明確にし、社会人として必要な働き方等に関する知識を学ぶ。 また、法人マッチング演習や探求課題へ取り組み知識を深める。								
講師名	法人マッチング参加企業の就職担当者、ITアドバイザー、農業大学校職員他						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・就職試験に対応できる社会一般常識を身につける ・演習を通じてエントリーシートの書き方や企業との対応方法を身につける								
使用教材	法人マッチング関連資料、講座・講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義終了後のレポート、演習取組状況等により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	法人マッチングへの事前準備						2		
2	法人マッチングへの心構え						2		
3	法人マッチング演習						1		
4	法人マッチング演習						1		
5	法人マッチング演習						1		
6	文章表現・農業テーマに沿った探求						2		
7	社会人に必要な基本的知識①						2		
8	社会人に必要な基本的知識②						2		
9	社会人に必要な基本的知識③						2		
10	社会人に必要な基本的知識④						1		
11									
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	R102	就業キャリア創造Ⅱ		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	就職試験において必要となる文章表現・スピーチの方法、社会一般常識に関する知識を学ぶ								
講師名	小田原文（一般常識） 愛甲祐子（文章表現・スピーチ）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・就職試験に対応できる社会一般常識を身につける ・エントリーシートの書き方、面接の受け方を身につける								
使用教材	講師が準備した資料、SPIベーシック								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	就職試験対策一般常識①						1		
2	就職試験対策一般常識②						1		
3	就職試験対策一般常識③						1		
4	就職試験対策一般常識④						1		
5	就職試験対策一般常識⑤						1		
6	就職試験対策一般常識⑥						1		
7	就職試験対策一般常識⑦						1		
8	就職試験対策一般常識試験						1		
9	文章表現・スピーチ①						1		
10	文章表現・スピーチ②						1		
11	文章表現・スピーチ③						1		
12	文章表現・スピーチ④						1		
13	文章表現・スピーチ⑤						1		
14	文章表現・スピーチ⑥						1		
15	文章表現・スピーチ⑦						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	K101	英会話		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～7月
科目の概要	基礎的な英語の能力、技能を養う								
講師名	パッソス裕子						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	海外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる								
使用教材	講師の準備する資料、おもてなしチャンツ、QA-50								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	インタビューテスト、リスニングテストにより90点満点で評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	英会話 1（bananaチャンツ、クラスガイダンス）						1		
2	英会話 2（Welcome to japan, Unit1）						1		
3	英会話 3（Just one word, Unit2）						1		
4	英会話 4（Asking Questions, Unit3）						1		
5	英会話 5（Breakfast Lunch, and dinner, Unit4）						1		
6	英会話 6（Showing the Way, Unit5）						1		
7	英会話 7（Review1-5まとめ①, QAテスト①）						1		
8	英会話 8（Review1-5まとめ②, QAテスト②）						1		
9	英会話 9（Going Shopping, Unit6）						1		
10	英会話 10（Quick Responses, Unit7）						1		
11	英会話 11（I love Japan, Unit8）						1		
12	英会話 12（Welcome to our School, Unit9）						1		
13	英会話 13（Welcome to My Home, Unit10）						1		
14	英会話 14（Review6-10まとめ①, QAテスト③）						1		
15	英会話 15（Review6-10まとめ②, QAテスト④）						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

令和3年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	K102a	数学基礎		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～7月
科目の概要	高校までに学ぶ数学を学びなおし本校での実習等に活かすために必要な学力を身に付ける。								
講師名	本校教員・オンデマンド講座						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	数Ⅰまでの計算能力を身につける								
使用教材	講師が準備した教材 オンデマンド教材								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 （B：ビジネス数学、S：SPI）						時間	備 考	
1	数学基礎① 計算基礎・分数						1	講義、テスト	
2	数学基礎② 少数・割合・速度						1	講義、テスト	
3	数学基礎③ 速度・図形						1	講義、テスト	
4	数学基礎④ 図形						1	講義、テスト	
5	数学基礎⑤ ①～④の反復学修						1	テスト	
6	数学① オンデマンド講座						1	TryIt教材	
7	数学② オンデマンド講座						1	TryIt教材	
8	数学③ オンデマンド講座						1	TryIt教材	
9	数学④ オンデマンド講座						1	TryIt教材	
10	数学⑤ オンデマンド講座						1	TryIt教材	
11	数学⑥ オンデマンド講座						1	TryIt教材	
12	数学⑦ オンデマンド講座						1	TryIt教材	
13	数学⑧ オンデマンド講座						1	TryIt教材	
14	数学⑨ オンデマンド講座						1	TryIt教材	
15	数学⑩ オンデマンド講座						1	テスト	
授業時間外に必要な学修	「Try It教材」を用いた自主学習								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

令和3年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	K102b	実用数学		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～7月
科目の概要	高校までに学んだ数学力をビジネスの現場で生かすために必要な考え方・使い方を身に付ける。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	「ビジネス数学検定」3級の取得を目指すことを通して、論理的判断力を養い社会人に必要なスキルを身につける。								
使用教材	<実践>ビジネス数学検定3級 [公財] 日本数学検定協会編 (日経BP社) 講師が準備した教材								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)		受講態度 (減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	【導 入】ビジネス数学検定3級の概要 (シラバス説明) グループ編成テスト						1	講義 テスト	
2	【把握力】グラフの把握、平均値・時差・集合の把握						1	解説 グループ学習	
3	【分析力】利益・売上高の計算、割合を用いた計算、金利・仕入原価の計算						1	解説 グループ学習	
4	【選択力】割合、期待値による選択						1	解説 グループ学習	
5	【予測力】到着時刻の予測、平均を用いた予測、加重平均を用いた予測 一次関数・連立方程式を用いた予測						1	解説 グループ学習	
6	【表現力】グラフでの表見、図表の適切な使用法、関数のグラフ表現						1	解説 グループ学習	
7	「ビジネス数学検定」実力試験						1	テスト	
8	実力試験の復習及び解説						1	解説 グループ学習	
9	【把握力】グラフの把握、平均値・時差・集合の把握						1	解説 グループ学習	
10	【分析力】利益・売上高の計算、割合を用いた計算、金利・仕入原価の計算						1	解説 グループ学習	
11	【選択力】割合、期待値による選択						1	解説 グループ学習	
12	【予測力】到着時刻の予測、平均を用いた予測、加重平均を用いた予測 一次関数・連立方程式を用いた予測						1	解説 グループ学習	
13	【表現力】グラフでの表見、図表の適切な使用法、関数のグラフ表現						1	解説 グループ学習	
14	「ビジネス数学検定」対策						1	グループ学習	
15	評価試験						1	テスト	
授業時間外に必要な学修	「ビジネス数学検定問題集」を用いた自主学習								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

令和3年度 授業計画書〔シラバス〕									
科目名	K103	保健・体育		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義・演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践を通して学ぶ。								
講師名	農業大学校職員、外部講師							実務経験のある教員等 による授業科目	
到達目標	各スポーツの実践を通じて運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。 保健では、自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。								
使用教材	農大施設 講師の準備する教材								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	講義終了後のレポートにより評価する。 演習状況も知識の一部として勘案する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の 学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	各スポーツの基本技術習得						1		
2	各スポーツの基本技術習得						1		
3	各スポーツの基本技術習得						1		
4	試合形式による各スポーツの実践						1		
5	試合形式による各スポーツの実践						1		
6	試合形式による各スポーツの実践						1		
7	試合形式による各スポーツの実践						1		
8	試合形式による各スポーツの実践						1		
9	試合形式による各スポーツの実践						1		
10	試合形式による各スポーツの実践						1		
11	試合形式による各スポーツの実践						1		
12	試合形式による各スポーツの実践						1		
13	試合形式による各スポーツの実践						1		
14	試合形式による各スポーツの実践						1		
15	生涯を通じる健康についての講話						1		
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	K104	英語特別講義Ⅰ		学科名	全学科	学年	1	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。								
講師名	平井 悠						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	4年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
2	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
3	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
4	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
5	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
6	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
7	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
8	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
9	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
10	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
11	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
12	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
13	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
14	英文読解、和文英訳、時事英語						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	TOEICを受験する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	K106	情報処理演習		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～8月
科目の概要	情報化社会において必要となってくる、パソコンを利用した基礎的・基本的な情報処理を修得し、活用できる力を身につける。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	日検情報処理検定2級を取得できる能力を身につける。 卒業論文等で活用できる、農業データをまとめる技術を習得する。								
使用教材	日検情報処理検定問題集								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	情報処理能力の確認（入力）及びアンケート調査					1	出席番号		2,3
	A			B					A/B
2	文章の入力			文章の入力		1	能力別		2/3
3	エクセルの基本操作			エクセルの基本操作		1	能力別		2/3
4	3級問題 基礎知識			1／2級問題 基礎知識		1	能力別		4/5
5	3級問題 基礎知識			1／2級問題 基礎知識		1	能力別		2/3
6	3級問題 演習			1／2級問題 演習		1	能力別		2/3
7	3級問題 演習			1／2級問題 演習		1	能力別		2/3
8	3級問題 演習			1／2級問題 演習		1	能力別		2/3
9	3級問題 演習			1／2級問題 演習		1	能力別		2/3
10	3級問題 演習			1／2級問題 演習		1	能力別		2/3
11	情報処理検定実施			情報処理検定実施		1	能力別		2/3
12	GOOGLE FORM			GOOGLE FORM		1	能力別		2/3
13	パワーポイントの基本			パワーポイントの基本		1	能力別		2/3
14	ポスター作成			ポスター作成		1	能力別		2/3
15	コンテスト作品作成			コンテスト作品作成		1	能力別		2/3
授業時間外に必要な学修	日検情報処理技能検定1級または初段保持者については、マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS試験）の資格取得に向けて、課外を行い資格取得を目指す。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M101-A	専攻特別実習（各専攻）		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3～8	時間数	90～240	開講時期	6月～3月
科目の概要	・各専攻において栽培する品目の栽培技術や出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・各専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）		技能・技術（40点）		出席率（20点）		受講態度（減点）	
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。		各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	各専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得					90～240			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和3年度 授業計画書[シラバス]

科目名	M101-Af	専攻特別実習		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	6月～3月
科目の概要	フードビジネス専攻における必要な資格取得に関する学習や学生出資会社での販売実習、専攻での特別講義等を行うことにより、実践力を身につける。								
講師名	農業大学校職員(農学科 フードビジネス専攻)						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	各資格取得のための講習・各種イベント等への参加を行い、各自の技術向上を図る。								
使用教材	資格取得のためのテキスト								
成績評価	方法	知識(40点)		技能・技術(40点)		出席率(20点)		受講態度(減点)	
	基準	各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。		各専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	資格取得のための学修 学生出資会社 販売実習					150	6月～3月		
授業時間外に必要な学修	各自が1年次に取得する資格等を決定し、各自で準備する。資格取得のための学修を実施する。								
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M101-Z	専攻特別実習 (肉用牛・酪農)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	8	時間数	240	開講時期	7 月～3 月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を行う。								
講師名	・農業大学校職員 ・外部講師 ・畜産試験場川南支場養豚科職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～26	家畜の飼養管理等					26	7 月		
27～54	家畜の飼養管理等					28	8 月		
55～80	家畜の飼養管理等					26	9 月		
81～106	家畜の飼養管理等					26	1 0 月		
107～132	家畜の飼養管理等					26	1 1 月		
133～160	家畜の飼養管理等					28	1 2 月		
161～186	家畜の飼養管理等					26	1 月		
187～212	家畜の飼養管理等					26	2 月		
213～240	家畜の飼養管理等					28	3 月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	時間が不足する場合、休業期間中に専攻特別実習を行う。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M101-Zp	専攻特別実習 (養豚)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	7月～3月
科目の概要	・豚の飼養管理などの実習を行う。								
講師名	・川南支場養豚科						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・豚の飼養管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～16	豚の飼養管理等					16	7 月		
17～34	豚の飼養管理等					18	8 月		
35～50	豚の飼養管理等					16	9 月		
51～66	豚の飼養管理等					16	1 0 月		
67～82	豚の飼養管理等					16	1 1 月		
83～100	豚の飼養管理等					18	1 2 月		
101～116	豚の飼養管理等					16	1 月		
117～132	豚の飼養管理等					16	2 月		
133～150	豚の飼養管理等					18	3 月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	時間が不足する場合、休業期間中に専攻特別実習を行う。								

令和3年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	M102-A	スマート農業基礎		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・スマート農業の現状を認識する。 ・現地での実践的な取組を学ぶとともに、経営的な視点から技術の仕組みを学ぶ。								
講師名	宮崎大学講師、農業法人経営者、各メーカー担当者 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	・メーカーや農業法人との連携により、スマート農機を活用した栽培技術を習得する。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	各講座ごとにレポートにて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	スマート農業の現状と今後の展開 ・ICT技術の進化と生活・産業面での普及 ・AI・ロボット技術の進化によるスマート農業の今後の展開						3	宮崎大学 教授	
2									
3									
4	スマート農業の実践①農作業のスマート化 ・フィールドマン（栽培管理システム）・フィールドサーバーを活用した農業経営管理技術 ・ロボットトラクター等大型農業機械の一貫経営技術						2	民間企業	
5									
6	スマート農業の実践②ロボット農業機械について ・茶収穫 ロボット摘採機の概要と実演						2	総合農業試験場 茶業支場職員	
7									
8	スマート農業の実践③ 農業用ドローンについて		産業用ドローンの現状、活用事例 ドローンによるリモートセンシング事例				1	農業大学校指導職員	
9							1		
10			農業用ドローンの基本操作演習				1		
11							1		
12	スマート農業の実践④農業用施設の環境制御技術について ・施設園芸ハウスの複合環境制御法とその効果						2	民間企業	
13									
14	スマート農業の実践⑤ロボット等高性能農業機械について ・ロボット等高性能農業機械の開発状況と活用事例、今後の展開 ・ロボット等高性能農業機械の実演						2	民間企業	
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

[illegible]

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M103	簿記基礎		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	10～3月
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業簿記の基礎を理解する。 ・農業簿記検定3級取得レベルを身につける。								
使用教材	・農業簿記検定教科書3級（大原出版） ・農業簿記検定問題集3級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	・単元毎にミニテストを実施し理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95未満 0.9 ・80%以上90未満 0.8 ・70%以上80未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1,2	簿記の意義、記帳から決算までの流れ						2	農業大学校指導職員 担当講師	
3,4	貸借対照表の意味と構成						2		
5,6	損益計算書の意味と構成						2		
7,8	取引と勘定、帳簿						2		
9～12	仕訳						4		
13,14	資産、負債、資本						2		
15,16	収益と費用						2		
17,18	決算書作成						2		
19,20	農業簿記の特徴と決算書の見方						2		
21,22	農業における収益と費用						2		
23～26	建物・農機具の減価償却の計算法						4		
27～29	農外損益・特別損益、決算書						3		
30	試験①						1		
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習 講師から出される課題								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M104-A	農業生産工程管理		学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～12月
科目の概要	・ 農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてG A P の考え方を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ 農業生産工程管理（G A P）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。								
使用教材	・ 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	G A P の基礎①					2	農業大学校指導職員		
2	G A P の基礎②								
3	国内外のG A P を取り巻く状況					2			
4	G A P の認証と導入								
5	リスク分析の考え方					2			
6	生産工程におけるリスク分析								
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					2			
8	労働安全のリスク分析								
9	ひなたG A P チェックリストの解説①					2			
10	ひなたG A P チェックリストの解説②								
11	G A P 現地研修（農大校ほ場）					2			
12	G A P 現地研修（農大校ほ場）								
13	A S I A G A P チェックリストの解説①					1			
14	A S I A G A P チェックリストの解説②					1			
15	試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M104-Z	農業生産工程管理 (GAP)		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～7月
科目の概要	・農業生産活動の持続性を確保するため、①食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産GAPについて基礎的な知識を習得する。 ・GAPを理解し、実践する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	畜産GAPの基礎と必要性						1	担当講師： 農業大学校職員	
2	畜産GAPの基礎と必要性						1		
3	リスク分析の考え方						1		
4	生産工程におけるリスク分析						1		
5	農産物取り扱い工程におけるリスク分析						1		
6	労働安全のリスク分析						1		
7	GAP現地研修（住吉フィールド）						1		
8	GAP現地研修（住吉フィールド）						1		
9	GAP現地研修（住吉フィールド）						1		
10	GAPチェックリストの解説						1		
11	GAPチェックリストの解説						1		
12	GAPチェックリストの解説						1		
13	GAPチェックリストの解説						1		
14	GAPチェックリストの解説						1		
15	試験①						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	M105	インターンシップ I		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	5月下旬
科目の概要	農業生産現場において、栽培・飼育技術や経営概要等について実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培・飼育技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日		・提出 提出有り：10点 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い）5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	・研修先の経営概要について学ぶ。 ・先進農家等の農業に対する考え方や取組について学ぶ。 ・実習をとおして基本的な栽培・飼育技術について学ぶ。					18時間	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
4日目 ～ 5日目	・実習や見学をとおして高度な栽培・飼育技術について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、農業経営について情報を収集する。					12時間	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和3年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	M106	インターンシップⅡ		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	1月下旬
科目の概要	農産物の加工・流通・販売等について実践的に学ぶ。								
講師名	農産物加工・流通・販売を行う農業法人や一般企業						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・農作物の加工・流通・販売に関する知識を習得する。 ・農業法人や一般企業での研修をととして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書(30点)		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日		・提出 提出有り：10点 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い）5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	・研修先の経営概要について学ぶ。 ・実習や見学をととして農作物の加工・流通・販売に関する取組について学ぶ。					18時間	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
4日目 ～ 5日目	・実習や見学をととして農作物の加工・流通・販売に関する取組について学ぶ。 ・講師等との意見交換をととして、農業関連産業について情報を収集する。					12時間	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和3年度 授業計画書【シラバス】									
科目名	M107	自主企画研修		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	10月～11月
科目の概要	高度な栽培技術・飼育技術、最新の加工・流通・販売に関する技術及び関連する経営概要を実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人、農産物の加工・流通・販売を行う農業生産法人や一般企業の職員等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	・先進的な農家や農業生産法人における栽培技術・飼育技術や経営概要、農産物の加工・流通・販売に関係する技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者や農産物の加工・流通・販売の従事者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌（20点）		研修報告書（30点）		研修評価書（30点）		出席（20点）	
	基準	・日数：2点/1日 ・内容 A（良い）2点/1日 B（普通）1点/1日 C（悪い）0点/1日 で採点し、0.25を乗ずる。		・提出 提出有り：10点 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 A（良い）20点 B（普通）10点 C（悪い）5点		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 15日目	・研修先が立地する地域農業の概要について学ぶ。 ・研修先の経営概要について学ぶ。 ・研修先の経営や業務に対する考え方や取組について学ぶ。 ・高度な栽培、飼育、加工に関する技術や販売方法について学ぶ。					90時間	・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。		
16日目 ～ 20日目	・高度で実践的な栽培、飼育、加工に関する知識や技術を学ぶとともに販売方法について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、経営感覚やリーダーシップを高める方法や地域づくりのビジョン構築等について情報を収集する。					30時間	・説明等を講義形式で行う場合がある。		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和３年度 授業計画書 [シラバス]									
科目名	M108-A	総合実習		学科名	農学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	6	時間数	180	開講時期	4月～7月
科目の概要	・各専攻品目（作物、野菜、果樹、花き、茶、フード）の基本的な栽培管理技術、知識を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農産物の生産技術や経営技術の基礎、フードビジネスの基礎技術を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		受講態度（減点）	
	基準	各専攻実習時の知識の習得状況について、各職員がチェックし、採点にする。		各専攻実習のに取り組み及び技術習得状況について、各職員がチェックし、採点する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
回	内 容					時間	備 考		
1～180	各専攻品目の栽培管理等					180			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M108-Z	総合実習		学科名	畜産学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	6	時間数	180	開講時期	4月～7月
科目の概要	・肉用牛、乳用牛及び豚の基本的な飼養管理技術や加工技術を学ぶ。								
講師名	・農業大学校指導職員、川南支場養豚課職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術、加工技術の基礎を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識（４０点）		技能・技術（４０点）		出席率（２０点）		受講態度(減点)	
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。		講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
回	内 容						時間	備 考	
1～40	家畜の飼養管理等						40	4月	
41～90	家畜の飼養管理等						50	5月	
91～140	家畜の飼養管理等						50	6月	
141～180	家畜の飼養管理等						40	7月	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M109 M209	アグリビジネス		学科名	全学科	学年	全学年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～12月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度(減点)	
	基準	講義ごとのレポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	アグリビジネに関する講話①					2			
2	アグリビジネに関する講話②					2			
3	アグリビジネに関する講話③					2			
4	アグリビジネに関する講話④					2			
5	アグリビジネに関する講話⑤					2			
6	アグリビジネに関する講話⑥					2			
7	アグリビジネスレポート					3			
8									
9									
10									
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T101	農業機械基礎		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月
科目の概要	草刈り機取り扱いと基礎知識の取得。運搬車の操作方法、ローダの操作方法、葉散用動噴機の操作方法、トラクターによるロータリー実演の習得。								
講師名	農業大学校指導職員（機械担当）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	安全衛生教育、小農器具の取扱と操作、トラクター実演の習得								
使用教材	刈り払い機（講習テキスト）								
成績評価	方法	知識（90点）					出席率（10点）		
		うち理解度（70点）		うち受講態度（20点）					
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。		受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	刈り払い機に関する知識（学科）						1 時間		
2	刈り払い機を使用する作業に関する知識（学科）						1 時間		
3	刈り払い機の点検及び整備に関する知識（学科）						1 時間		
4	振動障害及びその予防に関する知識（学科）						1 時間		
5	関係法令（学科）						1 時間		
6	草刈り機の作業（実技）						1 時間		
7	ロータリー、ローダの構造と点検整備・運転操作（実技）						1 時間		
8	〃						1 時間		
9	〃						1 時間		
10	トラクターの運転操作・運搬車、動力噴霧器の取扱（実技）						1 時間		
11	〃						1 時間		
12	〃						1 時間		
13	草刈り機刃の取り付け作業とメンテナンス（実技）						1 時間		
14	圃場での草刈り演習（実技）						1 時間		
15	〃						1 時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T102	大型特殊免許 (農耕用限定)演習		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。								
講師名	農業大学校指導職員（機械担当）						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。								
使用教材	なし								
成績評価	方法	知識（90点）					出席率（10点）		
		うち理解度（70点）		うち受講態度（20点）					
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。		受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	トラクターの操作方法及び運転実習						1時間		
2	〃						1時間		
3	〃						1時間		
4	免許試験コースの説明、技能コースの説明及び運転実技						1時間		
5	〃						1時間		
6	〃						1時間		
7	免許試験コースの運転練習及び評価						1時間		
8	〃						1時間		
9	〃						1時間		
10	〃						1時間		
11	〃						1時間		
12	〃						1時間		
13	〃						1時間		
14	〃						1時間		
15	〃						1時間		
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	なし								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T103	農業機械		学科名	全学科 (フード専攻除く)		学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1		時間数	15	開講時期	1月
科目の概要	農業機械（農業機械全般に関するテスト、ノギスの使用方法、工具の取扱、トラクターの整備、プラウの着脱）農業機械に関する安全研修。									
講師名	農業機械							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	1 年間の農業機械に関する知識が備わっているか、安全に操作出来ているか。									
使用教材	農業機械（教本）									
成績評価	方法	知識（90点）						出席率（10点）		
		うち理解度（70点）			うち受講態度（20点）					
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	工具の取扱い(講義・実習)						1時間			
2	トラクターの構造・点検(講義・実習)						1時間			
3	トラクターの整備（実習）						1時間			
4	トラクターの構造・点検・整備（学科試験）						1時間			
5	工具の取扱い(実技試験)						1時間			
6	〃						1時間			
7	トラクターへのプラウの着脱・調整（実習）						1時間			
8	〃						1時間			
9	〃						1時間			
10	〃						1時間			
11	プラウの着脱・調整（実技試験）						1時間			
12	〃						1時間			
13	トラクターの安全走行（斜面走行）（演習）						1時間			
14	〃						1時間			
15	農作業安全の基本（DVD視聴、農機具メンテナンス）						1時間			
授業時間外に必要な学修	なし									
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出									

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T104 F104	会社経営 (フード必修・他選択)		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択 必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月
科目の概要	農大の学生出資会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。								
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方 法	知識（90点）			出席点（10点）			受講態度（減点）	
	基 準	学生出資会社の運営に関する意見交換会やレポート提出により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	会社経営における経営者の心得 法人代表者						1		
2	学生出資会社について						1		
3	1, 2年合同						2		
4	会社経営について 法人代表者								
5	1, 2年合同 学生出資会社の新役員体制づくり						1		
6	1, 2年合同						2		
7	学生出資会社の新役員体制づくり (2年生との引き継ぎおよび役割分担)								
8	1, 2年合同						2		
9	会社経営、商品開発について 法人代表者								
10	令和3年 定時株主総会						2		
11									
12	令和3年の経営分析						1		
13	パッケージデザインについて デザイン会社技術者						2		
14									
15	まとめ（レポート作成）						1		
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和3年度 授業計画書〔シラバス〕

科目名	T105	農業経営		学科名	全学科	学年	1 年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・ 農業経営や農業簿記の基礎、将来の農業経営設計作成方法を学ぶ。								
講師名	農業経営支援課 専門技術指導担当 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等 による授業科目		
到達目標	・ 農業経営に関する知識を身につけ、将来のライフプラン及び経営シミュレーションを作成する。								
使用教材	・ 講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		受講態度（減点）		
	基準	試験及び作成した資料により、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	農業経営について①						1	農業大学校指導職員	
2	農業経営について②						1		
3	農業経営について③						1		
4	農業経営について④						1		
5	農業経営の基礎						2	総合農業試験場 職員	
6									
7	農業経営の仕組み（個人経営の特徴）						2		
8									
9	ライフプラン、経営シミュレーションについて						2		
10									
11	経営シミュレーション作成①						1	農業大学校指導職員	
12	経営シミュレーション作成②						1		
13	経営シミュレーション作成③						1		
14	経営シミュレーション作成④						1		
15	試験						1	農業大学校指導職員	
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T106	食品衛生 食品表示（選）		学科名	全学科	学年	1 年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～11月
科目の概要	食品衛生や食品表示に関する知識や技術を身につけ、農業大学校生産物・加工品を題材に、表示ルール「食品表示基準」を遵守した表示方法を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品衛生に関する基礎知識及び食品表示法等に準じた食品表示に関する基礎知識を理解することを到達目標とする。								
使用教材	食品表示検定初級テキスト、食品衛生責任者ハンドブック								
成績評価	方法	知識（９０点）			出席点（１０点）		受講態度（減点）		
	基準	講義終了後、評価試験を実施し、評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	授業の進め方 DVD 食中毒予防の三原則						1	農業大学校職員	
2～7	食品衛生責任者養成講習会食中毒について ・ 各種食中毒の特徴と対策 ・ 食品衛生管理 ・ 食品衛生法 ・ 私たちの食生活と食品表示						6	高鍋保健所 食品衛生責任者講習	
8	食品表示検定について						1	農業大学校職員	
9～12	食品表示検定について 食品表示の目的、生鮮食品の表示加工食品の表示食品表示例と具体的事例						4	（一社）食品表示検定協会講師	
13	振り返り						1	農業大学校職員	
14	食品表示検定に関する演習						1	農業大学校職員	
15	模擬テスト						1	農業大学校職員	
授業時間外に必要な学修	食品表示検定（初級）の受験に向けた学習								
再試験及び補習対象の実施基準	食品表示検定の初級を受験のための補習を行う。								

令和3年度 授業計画書 [シラバス]

[illegible]